

花譜

二

三二八四

太政官文庫			
		和	
		書	
		門	
	一		
	二		
	三		
	四		
	五		
冊	函		

内閣文庫	
番號	和 11264
冊數	5 (2)
函號	197 28

耕種



正月或梅雨つゆ乃中よりとせむより滑りて数年の
ほたをひく。穀虫もせむとらへしはるるを
つむ。赤土黒土を好む。沙土はよりりくも
好む。竹葉は好む。土をせむるは赤
土黒土を好む。梅葉つばき乃好む。村民山茶
とかりく人くも好む。山城は日野
乃はるるはつをせむはけり。

納豆な豆 又少くつとまるとの如。常乃つと好む。すま
も氣ヨウジン胡蘿蔔は竹のり花らるるは好む。はるるは好む。
ま乃初をせむく。な元日村とつと。西よりて好む。

岸上乃清きとせむ。平安城より好む。喜林乃つと好む。
偏鄙へんびよりハ好む。梅も好む。ハ好む。はるるは好む。
よりりせむはるる。守月は好む。はるるは好む。
よりりは好む。はるるは好む。はるるは好む。
ハ好む。はるるは好む。はるるは好む。はるるは好む。
月は好む。はるるは好む。はるるは好む。はるるは好む。
ハ好む。はるるは好む。はるるは好む。はるるは好む。
金盞花 和俗さんせんも好む。ま乃初より好む。
も黄金乃く。はるるは好む。はるるは好む。はるるは好む。
子此形ハ虫は好む。ま乃初より好む。はるるは好む。

辛夷花 糸ハ柳乃とく花ハ玉華ハ似て香もくか
はよらら白し。そ葉葉のく。あまををり。二
月よ花ひく。

小梅 香ハ乃ひく。俗ハ彼岸梅といふ。是梅の引行
なり。あも梅ハゆり。

垂絲梅 ぬぐん梅より花や可をし。是ひんさくも

あまざれもあて一類なり。あまひんさくも乃

香もつぎそりし。乃梅乃梅乃香もつげんせを

やうし。還地ハあて。ぬぐりよあまをひんさく根

乃香もあまし。は梅を中よあまを梅梅はあて

あまをし。

梅 ひん梅香乃乃花をひく。彼岸梅より十日

げり遅し。は梅ハあまをひんさくも乃乃香も

花乃とあまのりて遅速あり。香回乃梅好ハひん

梅をあてし。花乃ゆり。立春より七十五日乃由

徒然あまゆけり。はれも今平安城乃ひん梅ハ

立春より六十五日とゆり。と。年乃香もひん

乃遅速あり。さし。年ハ立春より七十五日乃

ゆり。あまし。吉野ハ乃梅も立春より六十五日

とゆり。あまをひんさくも乃梅も立春より六十五日

すしてさしひしむるをさるる花乃をさるる
李花 二月は白花をひくく関東はあまハ花なし西國
みあふハみきんふとさるるなりけんハ桃と李ハ花
と交れんハシとともく似たり関東はあまハ桃李ハ
くさくさといふ黄とさるるをさるる農政全書曰李ハ
肥地よりなりけんハ臘月より種入し五月を過く
くさくさといふ種一乃をさるるなりけんハ李ハすき
さるるなりけんハ地はあまハすきなりけんハ
さるるなりけんハ五月は未ださるる石をとりけんハ
みきんふ。

連翹

二月は黄物とひくくさるるなりけんハ
ほろろなりけんハさるるなりけんハ一本よりさるる
さるるなりけんハさるるなりけんハ一本よりさるる
てさるるなりけんハさるるなりけんハ一本よりさるる
すき。李ハ五月は未ださるる石をとりけんハ
みきんふハ物よりさるるなりけんハさるるなりけんハ

桃

順和名抄ハハみきんふとさるるなりけんハ本草曰桃ハ
せきすきなりけんハ桃ハ梨ハ似たり二月は白花とさるる花
なりけんハ雪のさるるなりけんハ実百果よりさるるなりけんハ
なりけんハ四月は翹とさるるなりけんハ

唐よりハキ実のハキを弾みの
こころありといふ。日ありてよを示さしむるハ
人の中し。名花譜曰春れ中節ある時をかりて肥土
よこせしけく。又実をすくふしをくちりてを此
実あり。

山搦桃 花ハゆきよはひしゆくらつらう。葉もく尖
あり実ハちんちんして尖まり 花もよ実もよと地
搦桃といふ。花のちんちんあり。花紅あり。

玉蘭花 葉白二つあり花大なりじゆんゆきの花より
すくなく実もまきなりとす。唐の卷よとくわんを

つぎ玉蘭の卷よとくわんをいふ。園史及心通生
ハ卷よ玉蘭をいふとくわんげ花実なりといふ。花
史曰冬くらみと生す。三月よむて花をいふと葉
をいふとくわんをいふとくわんといふ。花
よくわんといふとくわんをいふとくわんといふ。

二月

桃花 花紅なり。花の葉は濃紅。白桃。御世。日
月桃。並絲桃あり。抄に府志云。あまのつらやうの
紅桃といふ。海にすくふ桃。桃といふはく。きんぎょの
桃といふはく。今果すも。紅桃をすくわん。とくわんハ

を製してつるをぬきむしりけりやむし

玫瑰花 資暇録園史亦及李時珍食物本草云云の

とら。此區毒ありと云り三四月花とひく花紅

いなり。葉にらむとけり。葉の多し。葉の

赤くは似たり。花より大なるものあり。か

へし。年々くまむと搦ち。むしりてむし。むし

なり。大なるはむしりあり。園史曰んば

つらひはむしり。むしり。むしり。むしり

むしり。むしり。むしり。むしり。むしり

むしり。むしり。むしり。むしり。むしり

むしり。名花譜曰。根よりけり。新枝けり。むしり

むしり。むしり。むしり。むしり。むしり

餘醜花

け草。葉ハ濃緑葉。似て莖方ありて。けり

ありし草。むしり。むしり。むしり。むしり

花ハ赤く。子葉あり。葉より似たり。又菊社

丹中も似たり。西園あり。ハ菊の。似たり。園あり

ハあり。花とあり。三月より。又あり。あり

あり。あり。あり。あり。あり。あり。あり

あり。あり。あり。あり。あり。あり。あり

おつけてよし。只牡丹ハあつらふとさういふうか
○程樹虫曰元花ハこれまうなるんすなり。只牡丹ハ秋
結乃後うあてし。はぐみもさうさうよし。牡丹ハあ
ぶ肥土をひいて根よりりの宿土をひいてす。か
のしつてねえおまをひいて。さうなりあまをひ
○牡丹ハ糞をひいて肥およハ沖うすりとさうあハ糞
をかけし必いとい。他糞を和しとさう久しとさう
冬根よりりすとすしつりて。右のまをひいてす。さ
よあハあまをひいてさうさう。二年二月暖よりりさ
とさうあまをひいて去へし。或曰牡丹ハ其根をさうい
はくくといへし。かまハはくくとい。根をさうい
さうい。根をさうい。さうい。園史曰牡丹冬の
根よりりすとさうい。糞をかきけし花はる
なり。○牡丹ハあまをひいてさうい。卒亦ハあまをひ
てさうい。さうい。さうい。牡丹ハあまをひいて
牡丹ハあまをひいて。洛記云先五六月の間に牡丹
けの肥をさうい。さうい。七月はなよりりさうい。愛
熱してさうい。さうい。さうい。牡丹ハあまをひいて
さうい。さうい。さうい。牡丹ハあまをひいて。さうい。
へうとさうい。さうい。さうい。牡丹ハあまをひいて。さうい。

牡丹

火あてしやうごうし。まゝに端をとらしてありて
あまきまし。おのちあまきま。

躑躅

三月よももひく。お都あまき。おろくしあて

映山紅と稱するハ古書傳の記するんし。小書傳は美

すべし。しづまの海もあまき。まほハ其地より

下よりし。しづまの海もあまき。まほハ其地より

しづまの海もあまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

あまき。まほハ其地より

ひくまの。一窠より極小のあひまのやうな花の
すまの花のあひまのひくまのあひまのひくまの
ひくまのあひまのひくまのあひまのひくまの
ひくまのあひまのひくまのあひまのひくまの
ひくまのあひまのひくまのあひまのひくまの

馬蘭 一名蠶實本草の葉似薤而長厚三月開葉
碧花五月結子作角子如麻大而赤色有稜根
可為刷叢生一本二三十莖苗三四尺○或
云花を以てしるすといふありあり

白頭翁 花ハ鈴の形を以てしるすといふありあり
花乃紅あを莖あを白毛ありふ野よせの草ハ支
ふひより假ふよりあり

櫻草 三月の草のひくまのあひまのひくまの
淡紅の草あり。花乃紅あを莖あり。花を以て
紫ハ莖青ハ花ハ小なり。花を以てしるすといふあり

草あり。同類あり。陰地をすのひくまの
草あり。同類あり。陰地をすのひくまの
草あり。同類あり。陰地をすのひくまの
草あり。同類あり。陰地をすのひくまの
草あり。同類あり。陰地をすのひくまの



庭蓐 三四月に花をひく。あま木の類ありて
身し。花ハふ葉あり。あまの葉あり。うすあまの葉あり。
本ハまよ二三人よむ。の葉もひく。根ハひく。根
花をひく。しそ。あまの葉あり。根あり。葉をひく。根
をひく。あまの葉あり。根あり。葉をひく。根
くけりてあまの葉あり。根あり。葉をひく。根
根あり。あまの葉あり。根あり。葉をひく。根
すし。葉ハあまの葉あり。根あり。葉をひく。根

紫荊花 去るあまの葉あり。根あり。葉をひく。根

花あり。あまの葉あり。根あり。葉をひく。根

史曰。あまの葉あり。根あり。葉をひく。根

あまの葉あり。根あり。葉をひく。根

其花毒あり。人を殺す。

蝦根 去ハ初生のあまの葉あり。根あり。葉をひく。根

あり。三月甲のあまの葉あり。根あり。葉をひく。根

あまの葉あり。根あり。葉をひく。根

あまの葉あり。根あり。葉をひく。根

根あり。あまの葉あり。根あり。葉をひく。根

あまの葉あり。根あり。葉をひく。根

荒世伊登宇 三カよむ。あまの葉あり。根あり。葉をひく。根

てせしむ。去初又焼くべし。下品あり。或云胡蘆已
なりとぬり。

仙臺菘 花黄あり。赤ありやうし。或曰首菘是し

草牡丹 花赤あり。去秋より種入し。

米囊花 ひとよなる紅白。此は子菜乃紅白紫

あり。子菜なるハ花より。三月のすきひく。定

子亦ハ四月ひく。ひとハ黄あり。千葉ハまじく

あり。油うちありやうし。土地よりあり。

子花ハハけるも。黄なるより上よ。おまけあり

く。はくはくあり。ハ月中旬より

かゆてより地を耕す。秋通日ふりては

ふぼして耕し。地をこぼりて漫敷（まき）或畦（あし）をき

ふあてし。上よ。おまけあり。て月をあらひ

ちく。おまけあり。ては。おまけあり。ては。おまけあり。

おまけあり。苗をけり。おまけあり。おまけあり。

ほりし。園史曰く。て。おまけあり。て。おまけあり。

あり。おまけあり。て。おまけあり。て。おまけあり。

備云。九月九日又中秋日より。て。おまけあり。

又おまけあり。て。おまけあり。て。おまけあり。

あり。おまけあり。て。おまけあり。て。おまけあり。

すゝもりの多し。げやく葉をほくす。

四月

菖蒲花

葉も花も燕子花より似てらるし。一様ありて

別後より。そまのしるはさあしてそりあり。又白

浮ふりあり。昔藤原の湯平の妻をゆく物をり。け

あやめよ。あしと。あまのしるはさあしてそりあり。燕子花より似て

水底乃中或邊地よりあつたなり。圃ゆきより毎年

とて根をすくわたりし。花のうらみ。秋乃流り

とて。とやりのり。あまのしるはさあして。けちる

ふハ秋よりなり。

錦帯花

すまのしるはさあして。花は

白く。ほろあし。又ひそり。とて。城乃

とてあり。別乃一様あり。

赤練花

そまのしるはさあして。冬よりありて。ねと

葉をすく。お月を花をひく。花紋あり。ま

よまのしるはさあして。赤練より似る物あり。四月

花のうらみ。とて。赤練乃花ハ

石竹

古歌ふも。頃和名あり。とて。とて。とて。

花譜

三

くらみゆし。四月に花あり。暖を好して土人
 土が月を實とてり。灯油とて車に油とて入して。農政
 全書曰。土を土灰とて灰或能毒を以てけり。儼
 爽とてり。又四月に花あり。○本草綱目
 曰。二月八月十二月に花結して。○花と摘みハ花
 土を土人土を赤くしてり。土を土人土を
 白丁花 いよみ 土を土人土を赤くしてり。土を土人土を

白丁花 いよみ 土を土人土を赤くしてり。土を土人土を
 土を土人土を赤くしてり。土を土人土を
 土を土人土を赤くしてり。土を土人土を
 土を土人土を赤くしてり。土を土人土を

芍藥 げん詩經よ也。上代より名ある花なり。

時珍曰。十月生芽。至春乃長。凡三十餘種。有千葉
 單葉樓子之異。月令廣義曰。十二月芍藥とてり。人
 し。古今醫統曰。表わらう。土を土人土を
 かり。傍根とてり。土を土人土を
 ○遵生八牋曰。芍藥とてり。土を土人土を
 土を土人土を赤くしてり。土を土人土を
 土を土人土を赤くしてり。土を土人土を
 あり。三年は一花なり。○又曰。十一月二月に花
 あり。土を土人土を赤くしてり。土を土人土を

とくくして。そのうちいふところからいふところまで
すきまをひいてけりし。たゞみやんをもちし。花
をらしてほきかきりたりて。元氣を根よゆりて
へし花のうんちをうり。又のうんちと。若くは
と根をわりの力よなり。芍薬乃又大抵紅
紫白乃三ありて。今日本乃芍薬凡百餘種あり。
牡丹を花王として。芍薬を花相とす。その位牡丹よ
げり。○赤土田土よよりくくす。黒土よし。又海
くちなるおとより。冬三月。月よはあめく一箇
根よりをけりて。人薬を多くけりし。小使と
さるし。又芍薬とすし。根乃人よハ人薬を垂
へくす。思ふ薬とすくけりし。根乃人よハ人薬を垂
いふ。○一説。芍薬は薬をす法。九月めらひ
ちし。芍薬をす。芍薬をす。根乃人よハ人薬を垂
三寸おきて。そのうは薬多くあてし。十二月ハ人薬を垂
す。人よ。根乃人よハ人薬を垂。芍薬乃人よハ
薬をあげた。そのうは薬多くあてし。芍薬乃人よハ
根乃人よハ薬を垂。又二月ハ三四寸苗のむら
とす。芍薬乃人よハ薬を垂。或曰。芍薬乃人よハ
生す。根乃人よハ薬を垂。又芍薬乃人よハ薬を垂。

肥土とみくらとをうつくしきとくをいへし。八月以後
又梅雨のうらやまし。根ぞうてはせりてふらし。
はくしも同くうらやまし。けし園史はいつたり。又
花史曰。春のけしめ枝をわけて地よりけし。葉を
つてをさかたけ。枝をうけては平をすりたり。夏
年けしをうらやまし。月令廣義曰。陰雨よりけし。日
をさかたけ。夏ハあをさかたけ。けしをうらやまし。雨水
をさかたけ。又濃をいひ。導生ハ殘曰。
眼をさかたけ。あけをさかたけ。園史曰。
あけをさかたけ。或人乃いひ。けしをうらやまし。八月はあ
けをさかたけ。日乃あけをさかたけ。あけをさかたけ。あけを
さかたけ。又園史曰。豆餅をさかたけ。
けしをさかたけ。けしをさかたけ。紅鵝花乃根よりけし。
○松のけしをさかたけ。花をさかたけ。あけをさかたけ。
土地よりあけをさかたけ。けしをさかたけ。けしをさかたけ。紅鵝
花をさかたけ。或曰。紅鵝花ハ暑をさかたけ。あけをさかたけ。
を根よりけし。けしをさかたけ。けしをさかたけ。けしをさかたけ。
けしをさかたけ。けしをさかたけ。けしをさかたけ。けしをさかたけ。
けしをさかたけ。○花史曰。陸地をさかたけ。あけをさかたけ。

別種ありとけり。又麗春花と云。格物論曰。麗春ハ
罌粟け此の種あり。くさやうとて汁あり。紅紫
白乃三種ありとけり。ひよこあり。千葉あり。ハを
あり。魚のありひけとけり。くさやうとて。八月中旬
うづらや。けしとけり。

檀たん特花 系ハうらんよ似て花紅く。実ハ蓮肉よ似て堅
し。紫紅とけり。胡麻乃糟すとけり。あつし。これ
美人意の類なり。人し。くさやうとて。くさやうとて。くさやう
へし

五月



